

二度目の人生であるかのように生きる

校長 皆川 勝

4月に本校に赴任した時から、始業式や終業式、学校だより等で生徒の皆さんにお伝えした内容は、おおむね以下の通りでした。

- | | |
|-----|--|
| 4月 | 良心に基づいて行動することの「選択の自由」こそが人間の人間たる所以である。 |
| 7月 | 知識 (Knowledge)、スキル (Skill)、態度 (Attitude) が能力の3要素。
学ぶ態度 (How do you learn?) は「価値観」 (Why do you learn?) から生まれる。 |
| 9月 | 人任せにせず、周囲とコミュニケーションをとって、率先して行動する。
(“The Story of Everybody, Somebody, Anybody and Nobody” からの教訓) |
| 12月 | 学校という組織の一員であるという自覚と責任を忘れないために制服はある。 |
| 1月 | 人間は、自分の周囲の方々やコミュニティー・社会を構成する他の人びとやその組織に関与することによって、この世の中で唯一無二の価値ある者として存在している。 |

まとめると、「本校の一員であるという自覚と責任をもち、学習や部活などの諸活動を通じて知識とスキルを磨きつつ、自らの価値観を確立して学ぶ態度を高めるとともに、周囲の方々やコミュニティー・社会を構成する他の人びとやその組織と関わりながら、良心に基づいて率先して行動してほしい。」ということになるかと思います。さらに一言で言い表すならば、「真の人間であるために最善を尽くす」ということです。人間以外のほとんどの動物のように本能のままに行動したり、一部の心ない人間のように自分の欲望の満足を目的として他の人間を虐げたりすることなく、と付け加えたいと思います。

約1年間にわたって、生徒の皆さんと保護者の方々が、本校に入学しそして在籍していることに喜びと誇りを感じられるよう祈念しながら、先生方と協力して校務にあたってきました。幸いにして、保護者の方々のご理解と寛容、生徒の皆さんの素直な、そして率直な態度に感銘を受け、年度を終えることができたことに感謝しております。昨年2月に、前任者の長野先生が急遽、退職されることが決まり、校長不在となることを避けるために、1年限りのショートリリーフとして校長職をお引き受けしたことについて、間違っただけではなかったと自分では思っておりますが、その評価はその後の経過で明確になるのでしょうか。大学教員から未経験の中学高校の一員として受け入れていただいたことに感謝いたしております。

生徒の皆さんには、これからもいろいろな迷いや悩みを克服しながら、しっかりと前に進まれることと信じていますが、最後に、生徒の皆さんひとりひとりの人生は、そのように価値のある人生なのだという思いを込めて、この言葉を贈りたいと思います。

「一度目の人生の失敗をただすための、二度目の人生であるかのように生きなさい。」

以上